



長良川では流域86万人のくらしの中で清流が保たれ、鮎が育ち、地域の歴史、文化、経済と深くつながっています。

## 食文化と鮎産業

長良川では、鮎を中心とした内水面漁業が盛んです。観光資源である鵜飼や、鮎鮓、鮎菓子といった食文化など、鮎に関わる産業に多くの人が携わっています。

## 豊かな生物多様性

流域には、太平洋から遡上するアユやサツキマスなどの回遊魚のほかに、特別天然記念物のオオサンショウウオや、天然記念物のネコギギなど、多様な生物が生息しています。

## 伝統漁法と資源の確保

長良川には、「鵜飼漁」「瀬張り網漁」「夜網漁」など、様々な伝統漁法が引き継がれています。特に、長良川鵜飼は、およそ1300年前から続く伝統ある漁法です。

## 守り伝える伝統技術

長良川のきれいな水を利用したユネスコ無形文化遺産の本美濃紙や、伝統工芸品の郡上本染など、様々な伝統技術が継承されています。

## 里川の利用と保全

里川は、人々が適切に管理することで守られます。長良川の環境や景観を保全するために、下流にきれいな水を届ける「水舟」という知恵が、今も生活に根付いています。